キマグレ 第536号 彦根東高校新聞 平成22年 (2010年) 11月10日 (水)

南国の風に吹かれながら ～adventure course～前編

修学旅行取材日記 7

コースに参加する一行は7時59分発の船に揺られながら、目的地である西表島へと向かった。船の名前は『サザンドリーム号』。この旅への期待に満ち溢れた私たちにはぴったりの名前だ。心地良い波に揺られて、約50分間の船旅である。窓から見える景色では、陽の光が水面に反射して輝いていた。

西表島に着き、髪が巻き上がるほど強い海風の歓迎を受ける。ここからは最初の目的地『マリュドゥの滝』までバスで約１時間の行程だ。島の西側から東側への大移動である。運転手さんの案内と共に、どこまでも広がる南国の景色を楽しみながら長閑な島を進んでいく。

西表島は人口2000人、面積の８割が密林というのどかな島だ。面積は沖縄県下で２番目に大きい。信号は２つしかなく、車の交通量も少ない。爽やかな木々に挟まれた道を行くと早速イリオモテヤマネコにまつわるものが目に飛び込んでくる。飛び出し注意を訴えるものがあったくらいだ。だが、西表島はヤマネコだけではない。バスから見えただけでも、牛を始め、水牛、ヤギに馬と、普段はなかなか見れない動物に出会った。

川沿いには見渡す限りのマングローブが広がる。

バスの中では名前の知らない民謡が流れる。沖縄らしい和やかな曲を聞きながら目的地へとバスは進んでいく。

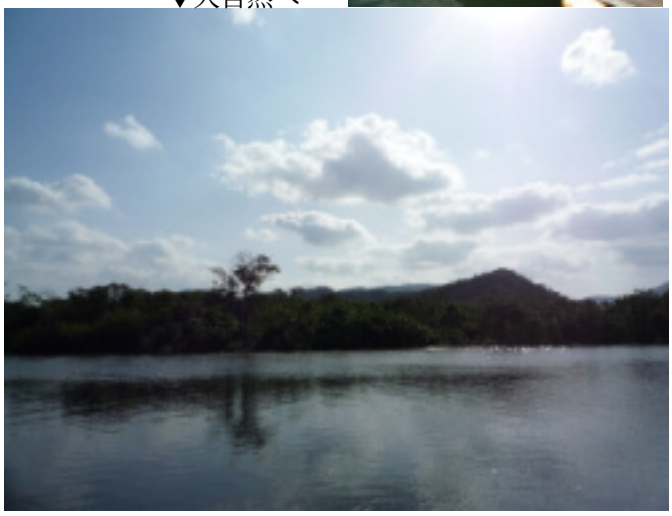
浦内川に着いた。遊覧船に乗り、上流へと８㎞の旅路を行く。時間にするとおよそ20分である。この川は沖縄県で一番大きい。その広い水面が光を自ら生み出しているかのように輝いていた。それに合わせて、川沿いに生えるマングローブの木々の葉も光で青々しくなり、まるで光の国のように感じられる。時折、顔にかかる水しぶきが冷たくて気持ちいい。ここにあるものすべてを美しいと感じた。

船着場が見えなくなってから、ここは異国の地のように感じられる。私たちが乗る船以外には人類を感じられるものは何もない。40年ほど前まではここに暮らす集落もあったそうだが、自然に飲み込まれてしまったのであろう、その跡はもはやどこにも見えない。そこには広大な水面に山々の木々、青空が広がり、力強い風が吹き付けるばかりである。速さと綿密さを追求する現代の日本にこんな景色があるのだと初めて知った場所だった。

（藍）

▶船に乗って

▼大自然へ



彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号